

第74回日本食道学会学術集会にて 消化器内科 河原 史明医長が 『優秀演題賞』を受賞!!

2020年、12月10日～11日の2日間、徳島県で開催されました「第74回日本食道学会学術集会」において、消化器内科 河原史明医師がWEBでの発表を行い、「優秀演題賞」を受賞しました。現在、社会全体だけでなく、当院も日々新型コロナウイルス感染症によって地域医療の逼迫を感じ、暗い気持ちになる中、受賞された事は大変喜ばしく、明るいニュースです。先行きが不透明で気持ちが塞ぎがちですが、負けることなく、これからも質の高い医療の提供に邁進したいと思います。



ありがとう
ございました

第74回 日本食道学会学術集会 優秀演題賞をいただいて

本学会はコロナ禍の影響で半年の延期を余儀なくされ、自分としても初めてのweb発表となりました。一筋縄ではいかない食道運動障害の診断と治療に関して、webでも重要なポイントが伝わるよう工夫しました。受賞は大変光栄に思います。アカラシアなどの食道運動障害の患者さんは思ったより多く、全国でも数少ない経口内視鏡的筋層切開術(POEM)を施行できる施設として、1人でも多くの食道疾患でお悩みの方に良い医療が提供できるよう引き続き研鑽を積んで参ります。

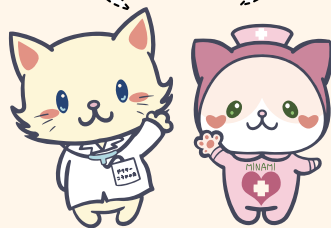
消化器内科 河原 史明

優秀演題賞

貴殿のご発表演題は第74回日本食道学会学術集会優秀演題に選出されました。ここに表彰し、謝状を授与します。なお一層精進されまことを祈念いたします。

こんな優れた
ドクターがいるのは
甲南医療センター
の誇りだね!

医療への探究心、
自己研鑽の努力が
認められて、すごい賞を
受賞することが
できたんだね!



甲南医療センター

〒658-0064 兵庫県神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16
TEL:078-851-2161(病院代表)
TEL:078-854-4370(患者サポートセンター)
<https://kohnan.or.jp/kohnan/>



六甲アイランド甲南病院

〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町中2-11
TEL:078-858-1111(病院代表)
TEL:078-858-2322(患者サポートセンター)
<https://kohnan.or.jp/rokko/>



地域の皆様と心を通わす

甲南 通信

教育特集 医師編

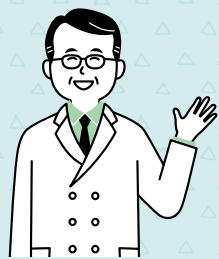
心の深くに届く
医療を担う
医療人の育成

2021
August
特集号



〔特集〕 内科系、外科系、各診療科の教育方針

病院が質の高い医療を支えるために 臨床研修は縁の下の力持ち



医師免許をもっているのに
どうして研修しないといけないの？



◎医師の臨床研修制度（初期研修）

平成16年（2004年）より臨床研修制度が開始されました（管轄は厚生労働省）。それまではインターン制度で医師免許取得後は医局に入局していましたので大学卒業後はすぐに専門分野を決めなければなりませんでした。

◎臨床研修制度開始後は（2004年～）

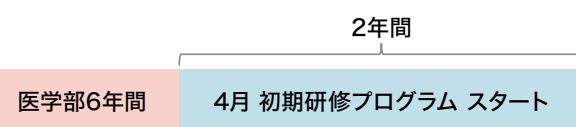
患者さんの保険診療するためには、医師は臨床研修を受けることが必修になりました。また、臨床研修を修了しないと開業できませんし、専門医の資格も取得できません。

医師国家試験に合格したら

臨床研修制度に基づき **基幹型臨床研修病院**^{（注）}で2年間の研修を受けます。必ず研修する診療科として、内科、外科、救急、小児科、産婦人科、地域医療、精神科があり、さらに、外来診療も研修する必要があります。

（注）基幹型臨床研修病院：臨床研修病院のうち、他の病院や診療所と協同して臨床研修を行なう病院のこと。

初期研修医を採用することができるのは、基幹型病院だけです。また、各都道府県知事が研修医の定員数を決定します。



■ 甲南医療センター初期臨床研修プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科※							外科※		救急科※		
2年目	産婦人科※	小児科※	地域※	精神科※	自由選択							

※自由選択：循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌・総合内科、呼吸器内科、腫瘍・血液内科、脳神経内科、腎臓内科、緩和ケア内科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、耳鼻いんこう科、眼科、放射線科、麻酔科、泌尿器科、産婦人科、救急科（順不同）

◎今年度の初期研修医数は？

1年次8名、2年次9名、神戸大学1年次および神戸赤十字病院2年次研修医が当院で研修します。

研修医室には24名の研修医が在籍しています（神戸赤十字病院研修医含む）。

六甲アイランド甲南病院と統合・再編								
※総数には日赤研修医は含んでいません。								
研修医数	2004(平成16)年	2008(平成20)年	2009(平成21)年	2018(平成30)年	2019(平成31)年	2019年10月～	2020(令和2)年	2021(令和3)年
1年次	1	6	6	6	6	12	9	8
2年次	—	4	6	6	6	12	12	9
神戸大たすきがけプログラム※1	—	—	—	—	1	1	5	6
神戸赤十字病院※2	—	—	—	—	—	—	6	6
総数	1	10	12	12	13	25	26	23

※1：神戸大学の研修プログラムです。1年間、市中にある他の病院で研修を受けます。※2：2020年4月より、神戸赤十字病院2年次研修医が小児科と産婦人科を当院で研修しています。

◎研修医の主な出身大学 ●神戸大学 ●徳島大学 ●香川大学 ●福井大学 ●兵庫医科大学 など

充実の初期 臨床研修環境

「次世代の医療を
担う優秀な若手人材」の
育成ための環境づくりに
取り組んでいます。



◎令和2年度の講義内容

臨床講義一覧

1	輸血療法
2	不整脈について
3	CT・造影剤の基本、common diseaseの画像所見
4	急性腎不全の治療と診断
5	救急における糖尿病
6	頭痛の見方
7	呼吸器疾患の救急対応
8	検査データの読み方とその注意点
9	腹痛患者の見方
10	放射線部で行う各種検査の進め方と振り返り提示の症例
11	救急外来での腰背部痛の鑑別診断
12	日常診療で出会う患者のこころのサポート
13	薬物相互作用とポリファーマシー
14	救急における咽喉頭感染治療の落とし穴
15	急性腹症～外科医の支店から考える手術適応とその実際～
16	泌尿器科疾患に対する救急対応
17	嚥下障害
18	産婦人科の基本手技
19	眼科救急疾患
20	栄養管理について
21	Neurosurgery@ER
22	周術期口腔機能管理について
23	皮膚科診療での基本的な見方
24	小児科救急
25	ケースカンファレンス

※変更の可能性あり

救急レクチャー一覧

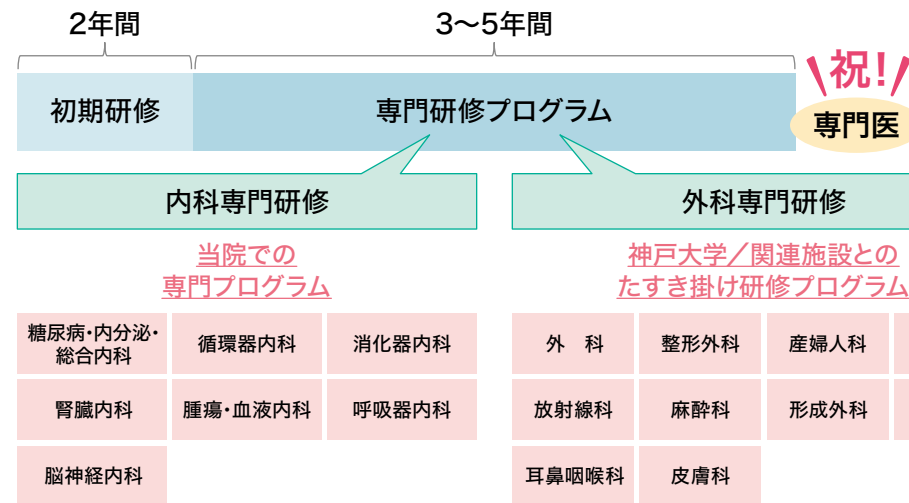
1	ERにおけるショック患者の診察
2	ERにおける超音波検査
3	熱中症の病態と治療
4	挿管実習
5	ビデオ咽喉鏡を用いた気管挿管
6	ERで使う薬剤のポイント ー循環作動薬を中心にー
7	救急外来における喘息発作
8	研修医お悩み相談室
9	質問への回答
10	心電図の基本
11	ERにおける整形外科外傷
12	ERにおける画像検査 ーCTとXpを中心にー
13	急性腹症のCT所見
14	ER／ICUにおける胸部Xpの読影
15	ERにおける創傷処置
16	ERでの緊急気道確保 ーDAM(Difficult Airway Managemet)を中心にー
17	心肺停止・心肺蘇生
18	敗血症の初期診療
19	ERにおける頻脈性単性脈の診断と治療
20	ERにおける徐脈性不整脈の診断と治療
21	ER診療の流れとショックの診断・治療
22	てんかん・けいれん・失神
23	一発逆転の救急手技
24	CPA ー 心拍再開後の治療
25	ERにおける外相初期診療



救急レクチャーの様子

専門医制度ってなに？

医師免許取得後→2年間の臨床研修(初期研修医)→臨床研修修了後3年以上の専門研修を行い、各基本領域学会で定めた知識・技能の習得を必要とします。
修了後は専門医試験を受験します(管轄:日本専門医機構)。



当院は**内科専門研修基幹施設**です。下記、診療科での研修が可能です。
糖尿病・内分泌・総合内科/循環器内科/消化器内科/腎臓内科/腫瘍・血液内科/呼吸器内科/脳神経内科

甲南医療センター内科専門研修プログラムの専門研修連携施設は18施設

- 神戸大学医学部附属病院 ●加古川中央市民病院 ●神戸赤十字病院 ●神鋼記念病院 ●北播磨総合医療センター
- 兵庫県立丹波医療センター ●兵庫県立淡路医療センター ●三田市民病院 ●明石医療センター
- 神戸市立医療センター中央市民病院 ●製鉄記念広畑病院 ●千船病院 ●大阪市立総合医療センター
- 淀川キリスト教病院 ●高槻病院 ●大阪府済生会中津病院 ●日本生命病院

※六甲アイランド甲南病院(特別連携施設)



層の厚い専門医、 指導医による

切れ目のない「心技一体」の教育体制

初期研修プログラム責任者/診療部長

下山 学

当院は、これまで地域の中核病院として医療を担うとともに医療者の育成にも尽力してまいりました。臨床研修病院として、医師臨床研修制度に基づいた独自の初期研修プログラムを展開し、2021年4月には新たに14名の新卒医師を迎え入れます。本年度は一年次、二年次合わせて計23名が、当院で初期研修を行うことになります。多数の内科系外科系学会の認定施設でもある当院には、初期研修を修了し各診療科の専門医を目指す専攻医も、多数在籍しています。各診療科には、診療の中心的存在である専門医、統括する指導医が従事し、切れ目のない教育体制が整っています。定期的に各診療科、各診療支援部門より臨床講義を行い、より実践的な知識の向上に努めています。

コロナ禍で学生臨床実習が十分に行えていない現状で、医師になって最初数年間の研修内容は、以前にも増して非常に重要な意味を持ちます。

当院の理念に『人の手で接する最善の医療』という言葉があります

この理念を実現するための大事な要素が、臨床現場には溢れています。数多くの患者さんの診療を、上級医と担当させていただくことその全てが、医師としての成長につながります。研修中とはいえ、若い力は当院の原動力の一つです。彼らは日々の診療で特定の診療科に属さず、各診療支援部門を含め病院の隅々まで駆け巡っています。当院の行動指針の一つに『不断の救急医療の全う』があります。現在、救急車の受け入れ件数は、神戸地区で2番目です。救急科には、研修医が夜間休日問わず24時間配属され、上級医とともに救急対応に当たっています。内科、外科系の当直医に加え各診療科は、オンコール体制を組んでおり多種多様な救急要請の応需率の更なる改善を目指しています。研修医は、初期研修に求められるプライマリケアを、症例を通じて習得していきます。スタッフは、指導を行うとともに研修医の向上心に刺激を受け、病院としてより高質な医療を、皆様に提供する努力を続けています。

最近、新たに「教育研修センター」を設立し、安心して研修生活が行えるようにサポートを充実させるとともに、社会人として自覚を持って行動できるよう指導を行っています。

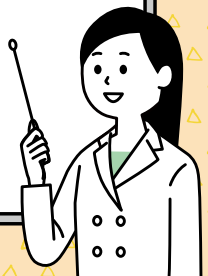
引き続き、研修へのご理解およびご指導を賜りますようよろしくお願いいたします。

心の深くに届く医療を
担う医療人とは？
—若手医師育成への想い—



心の深くに届く医療を 担う医療人とは？

ー若手医師育成への想いー



糖尿病・内分泌・総合内科

「最新の技術を駆使しながら全人的医療を目指す」

①糖尿病の分野においても医療の進歩は目覚ましく、次々と臨床応用される新薬の登場に加え、**テクノロジーを駆使した新たな機器**が糖尿病診療を変えようとしています。持続血糖モニターCGM/FGM、持続皮下インスリン注入CSII、その利点を合わせたSAP治療等、これらの機器を使用することにより、患者さんの状態を詳細に解析し適切に対応することができるようになってきています。②当院には3名の日本糖尿病学会指導医が在籍していますが、これは神戸市内では神戸大学病院に次ぐ指導医数であり、豊富なスタッフで若手糖尿病内科医の育成に努めています。また糖尿病診療には、チーム医療が重要です。当院では看護師、薬剤師、栄養士をはじめとする**医療スタッフの教育にも努め、より患者さんに寄り添った医療**を目指しています。一方で当院は救急医療に力を注いでおり、急性期医療の経験を通して若手医師の総合内科医としてのレベルアップを目指しています。日常的によく遭遇するコモンディーズや臓器別内科診療で診断困難な患者さんの診療は全人的医療を経験する貴重な機会です。最新の知見・エビデンスに基づいて診療に当たるよう努めています。③上記①に加えて、当院では総合病院としての強みを生かし、**充実した複数の診療科と連携をとることにより糖尿病合併症に対しても、きめ細やかな対応に取り組む**ことが可能です。また糖尿病診療を行う上では病診連携が極めて重要です。また**地域のネットワークづくりにも引き続き取り組んでいきたい**と思います。



副院長(院長代行)
山田 浩幸

循環器内科

「循環器専門医の資格取得を目指し、 診療行為や知識の習得・向上を目指します」

循環器内科では初期研修医および当院の内科専門医プログラムを受けている専攻医の教育を行っています。また、当科は神戸市東部地区の循環器救急を365日24時間体制で受け入れています。循環器内科のスタッフは当直もしくはオンコール体制で急性冠症候群、心不全、不整脈、心肺停止患者の治療をします。教育体制は初期研修医、専攻医、指導医の3人のチームで患者の治療・教育を行い、指導医のほとんどが循環器専門医の資格を有しています。さらに、心血管カテーテル治療専門医、不整脈専門医の資格を有し、冠動脈形成術(PCI)、末梢動脈形成術(EVT)、不整脈治療としてカテーテルアブレーション、デバイス植え込みのトレーニングを行っています。専攻医のなかで、特に循環器専門医を目指す医師は卒後3年目よりサブスペシャリストとしてのトレーニングを開始し、循環器科としての基本的な手技・知識(心臓カテーテル検査、心エコー、一次ペーシングカテ挿入、シンチ・CTCA、MRI読影、心臓リハビリなど)を習得します。研修の第一目標は、安全確実にカテーテル検査(CAG)が行えることです。約100例を経験した後PCIのトレーニングを行うことにしています。不整脈治療に関してはペースメーカー植え込みが術者として出来ること、またカテーテルアブレーションのマッピングに習熟し、助手として参加することを目標にしています。さらには、重症の心不全患者を受け持つことで体系的に心不全治療を学ぶように指導しています。若手医師にも、カテーテルカンファレンス、不整脈カンファレンス、エコーカンファレンスに参加することや、臨床研究を行い少なくとも年に一回の国内、海外学会発表を行うことも義務付けています。このような指導により、最短で内科専門医プログラム終了後2年目(卒後7年目)での循環器専門医取得を目指します。3年間の内科専門研修終了後は循環器内科で更なるトレーニングを継続することも可能です。

循環器内科では循環動態が目まぐるしく変化する急性期疾患を治療していますが、**患者さんの気持ちに寄り添い、不安や苦痛を取り除くよう心がけています。カテーテル治療の際も心技一体となる最善の治療を目指しています。**



消化器内科

「患者様の立場で考え、最善の治療を提供できるよう、 知識・技術のレベルアップに努める」

当科では専攻医は指導医とチームを組んで、**常に患者さんの最善となるよう、病態に応じた最適な治療法を考え、選択**することを学んでいきます。**低侵襲で短い入院期間で行える治療は、高齢の患者様やリスクの高い患者さんだけでなく、すべての患者さんにとって望ましいものです。**例えば、消化管の早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)は内視鏡で病変部のみを切除するため、消化管の機能を損なわず術後の回復が速やかです。**その実現はまず患者さんに検査を受けていただき、病気を早期に発見することから始まります。**内視鏡検査はつらいものというイメージを持たれている患者さん多いと思いますが、当院では検査の説明を丁寧に、疑問や不安を解消できるよう心掛け、必要に応じて鎮静剤・鎮痛剤も使用できるよう準備しています。進行がんによる辛い症状に対しても、内視鏡による処置は患者さんの負担を軽減できる可能性があります。当院では消化管閉塞症状の解除や黄疸の改善を目的とした各種ステント留置術も積極的に行っています。専攻医にはこのような日々の診療の中で、**消化器内視鏡による検査・治療には今後も進歩の可能性が広がっている**ことを感じてもらいたいと願っています。また、専攻医には、学会報告や論文から新たな治療の選択肢を学んだり、自らの経験から得た知見を学会で発表したりして、さらに理解を深めるよう指導しています。当院で研修を積んだ専攻医は、次世代の消化器診療の中心を担うべく、大学や連携施設でさらに研鑽を積んでいます。将来また当院に戻ってきて大きな力になってくれることを期待しています。当院は**日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会の指導認定施設**であり、専攻医の育成に力を注いでいます。



消化器内科 統轄部長
西岡 千晴

呼吸器内科

「若手医師の指導を通して、指導医も成長を」



呼吸器内科 部長
中田 恭介

呼吸器内科の診療で持てる力を発揮するためには、スタッフ個々が高い診療レベルを保持し、日々自己研鑽して診療レベルの維持・向上を図ることが重要だと考えています。当院は地域の基幹病院としての使命がありますが、同時に次世代の若手医師を育成することも大切な使命であると考えています。若手医師が経験を積むためには、勉強して知識を習得することも大切ですが、やはり患者さんの診療をいかに経験するかが最も大切であろうと考えています。当診療科では、指導医とともに回診したり、病状説明を行ったり、検査や処置を行ったりしながら、**技術だけでなく考え方や接し方、自己研鑽の姿勢などをフィードバックしていくように努めています。**若手医師を指導していくことで、指導医も向上意欲を持ち続けるためのモチベーションとなる相乗効果が得られると考えています。また、業務に忙殺されたり、体調がすぐれなかったり、ストレスを感じていたりすると、十分なパフォーマンスを発揮できなかったり、患者さんへの接し方が雑になったりしてはいけませんので、スタッフの健康状態にも十分配慮するようにしています。

「東灘区・灘区の子どもを守る」

甲南医療センターには、**東灘区・灘区で唯一の新生児・小児科病棟**があります。甲南医療センターの理念である人の手で接する最善の医療、心技一体で心の深くに届く医療を実践するために、小児科医として日々の診療に臨むとともに、若手の教育・研修に力を入れています。①子どもの急病に**いつでも対応すること**：子どもの急病は不安なものです。特に夜中や休日に体調を崩すと心配です。甲南医療センターは神戸市の二次救急輪番病院でもあり、できるかぎりの救急対応を行っています。子どもの病気、体調不良は急に発症することが多く、すぐに受診したほうがいいのか判断に迷うこともあります。そんな時にいつでも頼りにしてもらえる小児科をめざしています。平日は20時まで、土日休日は16時までの受付で、急な病気の子どもたちを診察しています。②子どもの**総合医**であること：子どもとひとこと言っても、新生児から中学生まで幅広い年代にわたり、成長していく子どもたちには、そのときどきで特徴があり、それぞれに合わせた診断・治療が必要です。慢性的疾患をもつ子どもたちにとっても保育園から幼稚園、小学校から中学校、高校へと環境も変わっていきますが、**ひとりひとりに寄り添った診療**を行いたいと考えています。③地域の子どもたちをかりつけの先生から安心して任せてもらえる**専門性**を持つこと：**アレルギー専門医が3名在籍しており、日本アレルギー学会の教育施設として、アレルギー専門医を目指す医師の教育を行える体制**をとっています。アレルギー疾患は気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎・結膜炎など複数の部位の疾患が重なることもあり、全身を診て治療できるのが小児科医のメリットです。また、食物アレルギーなど細やかな指導を必要とする疾患も多く、それぞれに時間をかけて診療を行っています。**小児神経専門医も1名**いて、発達の問題やけいれんなどの神経の病気も診療しています。それ以外にも、頭痛外来や内分泌外来などを開設しています。④安心して**赤ちゃん**を産んでもらえること：甲南医療センターでは新生児室もあり、年間100件を超える新生児入院があります。心配のある出産の場合には分娩に立ち会いますし、問題のない場合でも、小児科医の役割として赤ちゃんが健やかに育ってもらえるよう、生まれた直後から見守っています。⑤子どもの代弁者としての小児科医であること：小児科医はつねに**チルドレンファースト**で、子どもの利益を一番に考えます。いつでも子どもたちの味方であること、が甲南医療センター小児科の目標です。



副院長
太田 國隆

心の深くに届く医療を 担う医療人とは？

—若手医師育成への想い—

消化器外科



診療部長／消化器外科部長
千堂 宏義

「編成されたチームでの実践による手技の向上だけでなく、 学術教育にも注力しています」

消化器外科では全ての領域の手術に対応しています。最近では胸腔鏡・腹腔鏡手術の件数が増え、一部の領域では標準術式として定着しつつあります。胸腔鏡・腹腔鏡手術はモニターやビデオで手術が共有でき、手技の修得、手術の定型化が開腹手術に比べて容易です。難易度の高い手術が多い開腹手術では実際の触感、確実な手技、経験が重要となってきます。そのような中、当院には**胸腔鏡・腹腔鏡手術、開腹手術、各領域に長けた外科医が在籍しており、経験豊かな指導医のもと、若手医師にはあらゆる領域の手術に参加**してもらっています。幅広い分野・領域の手術を行っていますので若手医師は数多くの手術が経験できます。**常に患者さんの病状、生活環境に応じた最善の手術、医療を心がけるよう指導しています。**個々の技量・知識に基づいて、段階を踏んで手術を経験、修得し、その中で自分の興味ある分野、専門としたい分野を見つけることも可能です。また、当院では各消化器外科医が数名ずつグループに分かれてチームを編成しています。若手医師が画像診断、治療方針、術後管理などについて、いつでも気軽にチーム内で相談できるような体制をとっています。そして定期的にチームのメンバーを変更し、偏りのないようにしています。このように医療安全面からも万全の体制をとっています。具院長とともに外来診察や病棟回診を行うことで、常に患者さん、あるいはそのご家族の目線に立った心の深くに届く医療が提供できるように心掛けています。その他、毎回の術前・後カンファレンスのプレゼンテーションの経験を重ねていき、いつでも研究会や学会発表に挑戦できるように、学術教育面にも力を入れています。

産婦人科



副院長
森田 宏紀

「最先端の技術を研鑽出来るだけでなく、 多様なサブスペシャリティ資格が取得可能です」

平素より甲南医療センター産婦人科をご支援頂きまして感謝申し上げます。皆様、産婦人科と言えば何を思い浮かべられますか？多くは産院としての産婦人科を想像されると思いますが、今回お産は産婦人科の一部に過ぎないこと、さらに当科の教育、指導体制や専門医について紹介致します。

産婦人科の4つの柱：お産を扱う分野は周産期医療と呼ばれますが、産婦人科のサブスペシャリティには大きく4分野があり、周産期、婦人科腫瘍、生殖、女性医学から成ります。当科ではこのうち**周産期、婦人科腫瘍、女性医学の専門医、および腹腔鏡技術認定医が在籍しており、これらの専門医、認定医の資格を幅広く取得出来る体制**をとっております。産婦人科医不足の中での取り組みについて：本邦で産婦人科医不足問題が社会問題化して久しいですが、この問題は深刻になる一方です。若い医師にいかん産婦人科の魅力を伝えるかということが増々重要になっております。お産について満期の分娩のみの取り扱いであれば、食事などのアメニティー、アクセスなどむしろ病院全体としての対応が妊婦に重視されがちで、これは当院も非常に力をいれているところです。マンパワーを要しますが医学の介入する余地が少なく、若く有能な医師には物足りなく感じられかねません。子宮体癌腹腔鏡手術、ロボット補助手術などさらなる低侵襲化：一方で婦人科手術における低侵襲化は急速に進展しており、欧米のようにさらにロボット補助手術へと発展中です。**当院は神戸市内で4施設しかない子宮体癌の腹腔鏡手術の施設認定を取得**しております。良性、悪性腫瘍を腹腔鏡や今後ロボット補助下に手術することは一例であり、この他にも最先端の産科や婦人科の医療を常に取り入れ、患者様の紹介を頂くと共に医学生や研修医にとっても魅力ある科であり続けたく考えております。熱心な**上級医が先端技術に加え患者様主体の医療に取り組む姿勢も指導**します。甲南医療センター産婦人科に今後ともご支援ご鞭撻を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

救急科

「神戸大学と連携し、救急診療の原則や流れ、 診療技術、検査などの実地に即した判断のできる総合力の育成を 目指しています」

2019年10月に六甲アイランド甲南病院と再編統合し、甲南医療センターとなってからは神戸市東灘区の基幹病院として急性期医療に取り組む為、365日『断らない救急』を指針としています。

甲南医療センターを受診される救急患者のほとんどは救急科で初療を行うため、様々な疾患に対応し、初期診療を迅速に行える必要があります。救急科では、実際に来院される様々な患者様の診療を通して、ER診療の原則や流れ、診察技術、基本手技、検査の組み立てなど実地に即した研修が行われています。さらにそうした診察結果を踏まえ、**適切な診療科の医師と連携し、各科の専門技術を学習しつつ、安全に診断・治療を進める技術を学びます。**救急診療に関する、より専門的な知識を学習できるよう、神戸大学と連携して、日本救急医学会指導医・専門医の先生を週に2日招き、現場での直接的な指導や救急診療に関するレクチャーを開催しています（初期臨床研修プログラム）。

甲南医療センターは救急車搬送数だけでも年間5,000件を超え、2次救急で扱うcommon diseaseはほとんど全て経験できます。しかし症例数が多い分、複数患者を同時に診察する場合もあり、優先度を判断しつつ、診療する必要もあります。こうした『**限られた時間内での診断力**』も**養えるよう実症例・講義を通して指導・教育**をしています。

4月からは、更に神戸大学との連携を深め、救急診療の基礎から高度な手技・知識・考え方を習得できるカリキュラムを強化します。これからも、様々な救急症例を通して、経験を積み、甲南会が理念としている『**心技一体で心に届く医療**』が**提供できる医療人の育成に尽力**していきます。



診療部長／救急科統轄部長
高橋 徹也



整形外科

「スタッフ同士が気軽に相談し合い 切磋琢磨できるような環境づくりを心掛け、患者さんファーストな 医療の実践にむけて科全体で修練しています」



診療部長／整形外科部長
笠原 孝一

整形外科の疾患は多岐の分野にわたっており学ぶべきことが膨大なのですが、当科でまず若手医師の役割として重要なことは、当院の最大の目標である24時間365日断らない救急体制の中で、積極的に救急患者さんを診察して、一次処置を施せるようになることです。診断が正確に行えるか、それに対する治療方針が立てられるか、さらに手術を正しく行えるかが課題となります。これらを一人で学び実践できるようになることは困難なので、まずは自分で勉強することが大事ですが、わからないことがあればその都度すぐ上級医に相談し、指導・助言を受けることも大切です。質問される側のスタッフも**若手がためらわずに相談できるような環境**づくりをこそがけ、疑問や不安事に対し迅速に

的確なアドバイスを行うようにしています。

また最近の整形外科は治療の専門性が重視されるようになってきています。当科でも外傷のほかに肩・スポーツ、上肢・下肢関節、脊椎の専門医がおり、様々な専門性の高い疾患を抱えた患者さんが多数入院されています。これらの疾患もその担当上級医と一緒に治療チームに加わることで理解や知識を深め、いずれは自分がそのチームの主として治療できるように学び経験してもらっています。特に最近増えてきている脊椎患者に対する脊髓造影検査や神経根ブロックなどの検査を担当してもらうことにより、手技の上達のみならず病態の解明、手術の適応やその方法まで検討できるよう指導しています。

このように医師として専門的で最先端の知識と医療技術を学び取得する一番の目的は、患者さんを治すためであるということを忘れてはなりません。もし医療＝仕事になってしまうと、大変忙しい中で病気を治すための「仕事」を効率的にこなすこと自体が目的になってしまいがちです。そんな医療では結果的に病気が治ったとしても患者さんに満足してもらえません。日々の診療が仕事・業務化しないよう心掛けて、**患者さんとそのご家族の立場に立って「患者ファースト」な医療**を提供して行けるよう指導しています。



初期臨床 研修プログラムを 終えて



各科の優秀な上級医に指導して頂くことで 多くの知識が得られました

消化器外科

私は六甲アイランド甲南病院で初期研修を開始し、2019年に甲南病院と合併し甲南医療センターとなって以降からは当院で引き続き研修を行いました。総合病院ならではの幅広い診療科があるということは、common diseaseから比較的珍しい症例を経験できるだけでなく、各科の優秀な上級医に指導して頂くことで多くの知識が得られました。消化器外科を専科で研修中の現在も非常に役立っており、当院で研修を積んで良かったと実感しています。学生の時から消化器外科を専攻しようと考えていたため、実際に消化器外科をローテートした際には熱心に指導していただき、初期研修医ながら様々な経験をさせて頂きました。経験豊富な上級医の先生方に恵まれ、かつ初期研修で慣れ親しんだ環境でもあるという点が大きな決め手となりました。神戸大学の外科プログラムを選択することで、後期研修を引き続き当院で行うことができました。

今井 理揮

医師として第一歩を踏み出すのには 最適な環境でした

整形外科



1年目は内科、外科、救急を中心に多くのスタッフの方々に支えられながら医師として必要な知見を広く得ることができ、医師として第一歩を踏み出すのには最適な環境であったように思います。自分の進路をより意識する2年目には、それぞれの希望に沿ったプログラムを用意していただき、より専門性の高い研修をすることができました。初期研修で親身なご指導を頂く中で整形外科の魅力に触れ、3年目からは神戸大学整形外科のプログラムで後期研修医として引き続き甲南医療センターでお世話になっています。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

安見 武哲

医師としての基礎を築く上で 重要な経験が出来ました

放射線科

当院は2019年に甲南病院と六甲アイランド甲南病院が合併し、診療科が充実したことで、設備環境・人員にも恵まれた環境で急性期～慢性期の病態に対する適切な診断と診療を学ぶことができ、医師としての基礎を築く上で重要な経験が出来たと考えております。

放射線科の仕事内容は画像診断・IVR(interventional radiology)・放射線治療を3本柱として多岐にわたります。当院では主に画像診断とIVRが主な仕事内容になりますが、そのどちらもが非常に専門性の高い4名の指導医の元で学ぶことができます。合併により病院の規模が拡大したことで経験できる症例も増えてきており、2022年にグランドオープンした際には更に充実した環境になると思われます。私が放射線科専攻医として当院に残ることを決めたのは、このような充実した環境によるところが大きいです。

山中 智晴



※写真撮影のため、一時的にマスクを外しております。

多くの経験豊富な医師の親身な指導と 充実した初期研修でした

腎臓内科

当院は六甲アイランド甲南病院と甲南病院が2019年10月に合併し、誕生しました。合併により病院の規模が拡大したことで診療科も充実し、急性期疾患に触れる機会も増加しました。多くの経験豊富な医師の親身な指導と充実した初期研修を行うことができました。私は進路を腎臓内科という診療科に決めました。

腎臓というのは古来より肝心(腎という説もあります)かなめという言葉があるように肝臓・心臓と並び、人体にとって重要な臓器と考えられています。腎臓内科という診療科は入院患者・外来透析患者の診療に加え、シャント増設術という手術、PTA(percutaneous transluminal angioplasty)といったIVR(interventional radiology)手技まで仕事は多岐にわたります。

当院には藤森先生・岡田先生をはじめとし、経験豊富な合計5名医師の元で学ぶことができ、透析室のスタッフの方々も親切であり、設備も充実していることが当院に残る決め手となったと思います。

小島 克仁